

今月の技術対策

【秋まき小麦】

留萌農業改良普及センター

TEL : 0164-62-1779 FAX : 62-2474

E-mail: rumoi.nakanoukail@pref.hokkaido.lg.jp


 水稻・園芸編も
HPで公開中！

留萌農業改良普及センター本所管内の4月の気温は平年より高く、日照時間も多く経過しています。今後も作物の生育は早まると予想されます。細やかな観察で適期作業に努めましょう。

1 生育状況に応じた窒素追肥

- (1) 起生期は平年よりやや遅かったものの、その後の好天で生育が進み、幼穂形成期に達したほ場も見られます。適期・適量施用で追肥をしっかりと効かせ、穂数と粒数を確保しましょう。
- (2) ほ場ごとに生育を確認し、旺盛な場合は減肥で対応しましょう。

表 道北における品種別窒素追肥量の目安

(kg/10a)

生育期節	品種名	きたほなみ	ゆめちから	つるきち
	幼穂形成期(平年5/3)		4	6
止葉期(平年5/25)		4	6	4

2 除草剤散布 「農作物病害虫防除および防除剤使用ガイド」参照

今年も茎数が多い傾向です。雑草が小さいうちに、また小麦の茎葉が繁茂し雑草へ薬液がかかりにくくなる前に処理を実施することが重要です。

除草剤名	対象雑草名	使用時期	適正使用基準		注意事項
			10a当たり 使用量	回数 (以内)	
MCP ソーダ塩	一年生および 多年生広葉雑草	幼穂形成期 (収穫45日前まで)	300 g	1	・ 日中気温が20℃以上の好天日に 散布する
ハーモニーDF 水和剤	一年生広葉雑草	節間伸長開始期 ～穂ばらみ期 (収穫45日前まで)	3～10 g	1	・ 散布後、できるだけ早く専用の洗 浄剤でよく洗浄し、他作物の薬害 の原因にならないように注意する こと。

3 病害虫防除 「農作物病害虫防除および防除剤使用ガイド」参照

(1) 眼紋病

- ・ 連作や短期輪作ほ場で見られる土壌伝染性の病害です。倒伏・減収の原因となります。
- ・ 該当ほ場は幼穂形成期頃に、茎の地際部に薬液がかかるよう散布を実施します。
- ・ 小麦の生育が進むと、茎の地際部に薬液がかかりにくくなり、薬液散布の効果が低下するので注意しましょう。

(2)赤さび病

- ・ 5～6月の高温多照が本病の発生・まん延を助長します。昨年は、高温多照の影響で発生が散見されました。
- ・ 薬剤散布は次葉展開期～止葉期で効果が高く残効の長い薬剤を使用し、2回目以降の防除は開花始に赤かび病と同時とします（令和6年指導参考事項）。ただし、途中で病斑が目立つ場合は臨機で薬剤散布を行います。

4 倒伏防止 「農作物病害虫防除および防除剤使用ガイド」参照

- (1) 過繁茂のほ場では倒伏の発生が懸念されるので、植物成長調整剤の使用を検討してください。
- (2) 使用にあたっては、使用時期・使用量・使用上の注意点を十分確認して実施しましょう。

農薬散布にあたっては「農作物病害虫防除および防除剤使用ガイド」の最新版を用い、適正使用に努めてください。